

防火標語
その火事を
防ぐあなたに
金メダル



発行所
公益財団法人長野県消防協会
(長野県庁東庁舎内)
〒380-8570
長野市大字南長野字幅下692-2
TEL (026) 232-5319
編集発行人
武井 郁郎

長野県消防協会 <http://naganoken-syouboukyoukai.com/>



新年のごあいさつ

公益財団法人長野県消防協会会長 武井 郁郎

新年明けましておめでとうございます。県下77団、3万3千人余の消防団員を始め、消防関係機関の皆様が、令和3年の新春を、御家族ともどもお揃いで、お迎えのこととお慶び申し上げます。皆様には、それぞれの地域において、郷土愛と奉仕の精神のもと、地域住民の生命、身体、財産をあらゆる災害から守るため、身の危険をも顧みず、日夜献身的に御活躍されておりますことに、深く敬意を表しますとともに、当協会の事業運営に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

近年、多発する地震、台風や集中豪雨による災害に対し、地域の安全と安心を守るために活動する消防団はまさに「地域防災力の要」であり、その重要性は増々高まっております。昨年からの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、消防団活動等にも大きな影響が出ておりますが、有事の際に備え、引き続き、感染予防対策を徹底し、日々の訓練等消防団活動に努めていただければと思います。

長野県消防協会としても、より安全で快適な郷土をつくるため、消防団が活性化し、活動がより安全で迅速なものとなるよう、さらに努力してまいりたいと考えております。昨年12月16日に開催した第2回専門委員会、第4回理事会において令和3年度の事業執行方針が2頁に記載のとおり決定されました。主な事業を申し上げますと、昨年中止となりました、県消防ポンプ操法大会・県消防ラッパ吹奏大会は、7月11日に千曲市で、県消防団長・事務担当者研修大会は、10月22日に長野市でそれぞれ開催を予定しております。新型コロナウイルス感染症が収束し、予定通り開催されることを願っています。

また、県消防ポンプ操法大会等の今後のあり方を検討する「県消防ラッパ吹奏大会等のあり方検討会」につきましては、現在まで、4回の検討会を開催し、様々な観点から検討を進め、報告書が取りまとめられました。これを受け、理事会等で、具体的な実施方法等を検討してまいります。今後、事業執行方針に基づき、役員一同一丸となり、事業執行に当たってまいれる所存でありますので、本年も相変わらず御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が災害のない良い年でありますよう心から願うとともに、皆様方の益々の御健勝と御多幸を祈念申し上げます。



謹賀新年

公益財団法人
長野県消防協会

会長	武井 郁郎
業務執行理事	上條 博文
副会長	吉澤 節夫
副会長	渋谷 智義
常務理事	清水 昌敏
理事	前沢 直隆
	中島 公彦
	青木 春美
	町田 佳彦
	清水 正
	北原 義康
	久保田直也
	森本 剛士
	米窪 潤司
	山崎 佳之
	小宮山 泉
	田中 康喜
	中村 庄市
監事	小菅 和重
	中村 収
	平出 誠二
	中村 靖
評議員	五十嵐幸男
	河西 満正
	藤森 芳樹
	倉科 広三
	田中 敏勝

第4回理事会

令和3年度事業方針を決定



公益財団法人長野県消防協会の令和2年度第4回理事会を令和2年12月16日(水)に長野市のホテル犀北館で開催しました。

総務専門委員会関係

①基金運用、日消・県消防協定会定例表彰、消防団員の活動に対する事業所等への協力依頼について、従来どおりとします。

②令和元年度に、県消防協会ホームページの見直しを行いました。協会のSNS(フェイスブック)をホームページのトップ画面に掲載し、協会主催の事業、関係機関が主催し協会役員等が出席する事業、地区消防協会の事業、各消防団の事業等について、積極的に広報活動を行います。

各地区協会、各消防団における実施事業やトピックス等があれば、協会事務局に積極的に情報提供をお願いします。

また、消防団活動に対する理解と消防団への加入促進を図るため、令和2年度は、テレビスポットCMを実施しましたが、令和3年度は、ラジオ等も含めたメディアを通じての広報を実施します。

③女性消防団員の活性化について女性消防団員活性化会議を引き続き開催します。

また、令和元年度に引き続き、「長野県女性消防団員活性化大会」を開催しますが、開催方法等について、活性化会議で検討していきます。

教養専門委員会関係

①県消防ポンプ操法大会について令和3年7月11日(日)、千曲市の戸倉体育館A・Bグラウンドで開催します。

・長野県消防ポンプ操法大会「操法実施要領・操法大会審査要領」に一部変更があります。

・女性によるポンプ操法演技については、令和元年度は、「東信ブロック」(上田市)からの出場でした。令和3年度は、出場を希望する消防団にお願いすることとします。

・開閉会式の時間短縮については、「県消防ポンプ操法大会・県消防ラッパ吹奏大会」に関するアンケートで、熱中症対策として要望が多かった、開閉会式の時間短縮について検討し、3年度の大会から実施します。

・参加記念章については、出場記念として、出場者全員に、記念章を授与していただきますが、活動服の普及により、記念章を授与しても、佩用する機会がないため、実用的な記念品になるよう検討し、3年度の大会から実施します。

②県消防ラッパ吹奏大会について県消防ポンプ操法大会と同日に開催します。

・ラッパ吹奏講習会について、令和3年4月17日(土)県消防学校において、ブロック推薦審査員4名も参加し、規模を縮小し実施します。

③消防団ラッパ隊広域交流会については、他県からの出場が難しい状況となっていること、県内ラッパ隊の負担軽減のため、今後、開催しないこととします。

④第11回県消防団長・事務担当者研修大会について、令和3年10月22日(金)に長野市のホテル犀北館で開催します。

⑤副団長講習会については、従来から、東信・北信(消防学校)、中信・南信(持ち回り)でそれぞれ開催してきましたが、令和2年度から、1箇所とし、県消防学校での開催となりました。2年度は中止

止となったため、3年度は、1箇所とし、県消防学校で令和3年6月5日(土)に開催します。

⑥消防団員指導員研修は、令和3年12月16日(木)・17日(金)県消防学校において40人規模で開催します。

⑦消防団幹部特別研修は、令和4年1月開催日未定に東京都で行われますが、「中信ブロック」からの参加になります。

⑧消防団幹部候補中央特別研修は、令和4年1月(開催日未定)に東京都で行われますが、「東信・北信・南信ブロック」からの参加になります。

⑨第28回全国消防奏法大会は、令和3年10月29日(金)千葉県市原市千葉県消防学校で開催されます。出場種目は小型ポンプの部で、第63回県消防ポンプ操法大会小型ポンプの部優勝チームが参加します。

⑩第25回全国女性消防団員活性化徳島大会は、令和3年11月9日(火)徳島市「アステイとくしま」で開催されます。元年度同様、日消の情報交流会参加の女性消防団員1人につき5,000円の助成をします。

⑪日本消防協会の、消防団員等福祉共済、消防個人年金、婦人消防隊員等福祉共済、全日本消防人共済会の火災共済の加入促進を図ります。

⑫県等と共催で、市町村消防団事務担当者を対象とした消防団員等公務災害補償等実務研修会を開催します。

⑬県消防関係殉職者慰霊祭は、令和3年9月3日(金)長野市花岡平慰霊碑前で行います。正副会長・福利厚生委員の出席をお願いします。県消防長会と共催することとし、3年度は、県消防長会が当番となります。

⑭第40回全国消防殉職者慰霊祭は、令和3年9月9日(木)午前二ツシヨール(仮事務所、ヤクルト本社ビル内)で行われます。ご遺族の出席率は5名程度となります。協会の弔慰金等について、請求漏れのないよう周知徹底を図ります。

⑮信州消防団員応援ショップ事業に対する、広報等を積極的に実施していきます。

第4回県消防ポンプ操法大会・県消防ラッパ吹奏大会あり方検討会

第4回あり方検討会を令和2年12月16日(水)に長野市のホテル犀北館で開催しました。報告書(案)について、検討を行い、同日に開催された、第4回理事会に、報告を行いました。



消防団員等公務災害

補償等実務研修会

日本消防協会等が行っている「消防団員等福祉共済」や「火災共済」等について、県内消防団員の加入促進を図るための実務研修会を、令和2年11月19日(木)に松本市において開催し、39名の市町村担当者の皆さんが参加されました。



消防出初式

消防出初式が県下市町村で実施されますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止を決定した市町村が多数ありました。正月の伝統行事ともいえる出初式ですが、豪雪地域の6町村では4月に実施を予定しています。



木島平村消防団出初式
令和3年1月9日(土)
県消防協会長祝辞(小管理事代読)

県協会定例表彰

令和2年度の長野県消防協会定例表彰は、91団(分団・団体)、2,782名を表彰、市町村の出初式等で表彰が行われました。

・ 現場功労章	18 団
・ 優秀章	10 団
・ 無火災章	50 分団
・ 特別無火災章	13 分団
・ 功績章	80 名
・ 永年勤続功労章	23 1名
・ 功労章	25 6名
・ 努力章	22 7名
・ 精進章	34 0名
・ 技術章	22 3名
・ 精勤章	1, 35 2名
・ 退職者感謝状	69 名
・ 一般個人表彰	4 名



消防関係者

秋の叙勲

県内から4名受章
県内からは、次の方々が受章の栄に浴されました。

- ◆瑞宝双光章
 - ・ 元 小川村消防団 団長 小林 繁久
- ◆瑞宝単光章
 - ・ 元 長野市消防団 分団長 小嶋 賢一
 - ・ 元 大鹿村消防団 団長 森下 敏彦
 - ・ 元 長野市消防団 分団長 和田 文男

令和元年東日本台風災害対応に係る知事表彰

令和元年東日本台風災害において、人命救助活動の功績により5消防団に表彰状が、防災活動の功績により16消防団に感謝状が、令和2年10月26日(月)に、阿部知事から授与されました。

- ・ 表彰状受賞消防団 5 団
長野市消防団、須坂市消防団、飯山市消防団、佐久市消防団、千曲市消防団
- ・ 感謝状受賞消防団 16 団
上田市消防団、中野市消防団、東御市消防団、小海町消防団、川上村消防団、南相木村消防団

団、北相木村消防団、佐久穂町消防団、軽井沢町消防団、御代田町消防団、立科町消防団、坂城町消防団、小布施町消防団、高山村消防団、木島平村消防団、栄村消防団

「消防団員確保のための活動事例集」を作成

県内消防団における団員確保対策活動を幅広く周知し、消防団のさらなる充実強化及び地域防災力の向上を目的として「消防団員確保のための活動事例集」を作成し、各消防団に配布します。なお、「事例集」は、長野県消防協会ホームページにも掲載しますので活用ください。



消防団員募集用

ステッカーを作成

消防団員確保対策の一環として、県PRキャラクターのアルクマを入れた「消防団員募集中」のマグネットシート(公用車の側面に添付し使用)を作成し、



各消防団に配布しますので活用ください。

県消防協会事務局の

移転についてお知らせ

現在の県協会事務局が所在する県庁東庁舎は、昭和29年に建設され、老朽化が進んでおり取り壊しとなります。これに伴い、本年4月初旬に県庁西庁舎2階に移転となりますので、お知らせします。

- ・ 新住所、電話番号
長野市大字南長野字幅下

69212
長野県庁西庁舎2階
026123215319

- ・ 当協会のホームページURL、メールアドレスの変更はありません。
- (変更なし)

県消防協会理事が所属する消防団の活動状況について

団結力で地域を守る消防団活動



小諸市消防団

団長 青木 春美

小諸市の紹介

小諸市は、長野県の東部に位置し、北に雄大な浅間山、南西部には诗情豊かな千曲川が流れる自然に恵まれた街です。標高600m〜2,000mと高地に位置し、冬の寒さは厳しいですが、夏は湿度が低く国内屈指の晴天率を誇ります。

市内には四季折々の観光資源があり日本百名城、日本さくら名所100選に選ばれている小諸城址懐古園は、春の桜、秋の紅葉と四季を通じて市民や観光客を魅了しています。

浅間山麓、高原の清らかな水と空気、昼夜の寒暖差により多品目の果物や野菜が採られ、なかでもブロッコリーは長野県一の生産量です。他にも市内には多くの古刹、名刹が点在しています。

小諸市消防団の紹介

当団は、昭和29年町村の合併に伴い、同年団員数1,512名で小諸市消防団として発足し、昭和40年国の基準に伴う改訂により組織の編成、定数の見直しを経て、現在団本部・8分団とし、団員数850名で防火防災活動に全団員一丸となって取り組んでいます。

全国的に高齢化が進んでいる中で、当団の平均年齢は



水防訓練(木流し)



ポンプ運用訓練



規律訓練



規律訓練



女性消防団員救命講習

38・8歳と若者の力も大きく、また、女性団員の加入も増えており日々市民の生命・財産を守るために日夜活動をしています。

小諸市消防団の活動

今年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、小諸市消防団としては、火災出動を始め災害以外の活動を自粛せざるを得ない状況でありましたが、災害活動については常に感染防止に努め活動しております。

小諸市で行われる防災訓練に合わせ、当団では各分団で自主防災組織など地域の方々と一体となり避難訓練、消火訓練等有事に備え訓練を

行っています。

また、消防団協力事業所については、従業員の団員加入促進のため年一回訪問し、資機材等の貸出し一覧および緊急連絡網の作成にご協力を頂いています。

女性団員は、本部に属し、火災予防広報をはじめ救命講習会、災害時の後方支援、捜索出動、消防学校入校など幅広い分野での活動を展開しています。

令和元年東日本台風災害時には団員約600名が出動し、警戒、災害防止活動にあたりました。

おわりに

消防団を取り巻く社会情勢

や環境はめまぐるしく変わりつつある現在、当消防団も大規模災害時の対応・団員の活動環境の整備など、時代に合せた改革に取り組んでいるところであります。

近年、各地で大きな自然災害が頻繁に発生しています。が、災害の比較的低下がない地域では防災意識の低下が心配されています。今年度は、コロナウイルス感染症の拡大防止のため、計画されていた主な活動が中止になりましたが、災害時の備えと地域のコミュニケーション不足などを、消防団が補い「自助」「共助」の充実を図り安全・安心なまちをめざし、さらなる努力をして参る所存です。